令和4年度・第 10 回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　令和５年1月22(日)13:30～16:10

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、平尾　英城、山田　勲、三室　哲哉、中世古　昭一、
黒田　勝行、田口　信義、山田　修、平井　誠三、鈴木　豊
オブザーバー参加：　中尾せつ子
欠席：　谷猪　富貴子、渡辺　昇、山地　祐輔、蔵田　かほり

配布資料：

① 令和4年度第10回（1 月）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）V3
② 未来会議　令和5年度予算（案）V4子育て分科会
③ 未来会議予算/決算　支出見通し明細書　V2
④ 鹿ノ台未来まちづくり会議2022年度　収支見通し　V2
⑤ 令和5年度　鹿ノ台未来まちづくり会議運営方針（案）
⑥ 鹿ノ台未来まちづくり会議2023年度　予算書（案）　V3
⑦ 回覧　鹿ノ台中央公園の利用に関するアイデアを募集します
⑧ 鹿ノ台中央公園の利用に関するアイデア募集　スケジュール案
⑨ 鹿ノ台中央公園利用に関するアイデア
（QRコード経由自治会員回答結果1/22時点）
⑩ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行　乗車実績（人数）
12月度
⑪ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行実績　分析　12月度
⑫ 鹿ノ台地区　全体概略　防犯カメラ設置位置図
⑬ 県域水道一体化について
⑭ 生駒市資料
2）―4：①水道料金の抑制効果（単独事業と事業統合との比較）
主なメリット:②　管路更新・老朽化対策の向上➡安全で安心な水道水の供給

会長挨拶

未来会議は今年4月から3年目を迎える。もう一度設立の原点に立ち返り、中長期的な観点から鹿ノ台のまちづくりの課題を整理・点検し、解決策を検討し、優先度と実現性の高いテーマから実行に移していきたい。地域の若返りと活性化を目的に、この2年間3つの分科会で検討を進めて来た。若い世代の転入促進、子育て世代への支援、高齢者に対する支え合い、全世代参加型の交流などで具

体的な取り組みが行われてきている。後ほど、令和5年度の未来会議の運営方針と重点課題について説明するので議論していただきたい。

新構成員の紹介

北3丁目の平尾　英城さんが、未来会議の構成員として1月の連合役員会で承認された。今回より正式メンバーとして参加される。

平尾さん挨拶：　十数年前に家族で鹿ノ台に転入してきて以来、評議員等の地域活動を通じて、鹿ノ台の良さと弱さを自分なり見てきた。若い世代の転入促進や、住民が末永く暮らしていけるまちづくりに協力していきたい。

来年度の会議運営方針（案）と来年度予算について

<u>未来会議・令和4年度の支出実績見通し、及び年間収支について：</u>
令和4年度（2022年度）の予算は 117,020 円だった。支出見通しは、事務消耗品、印刷コピー代、会議費（会場費）、イベント費、雑費（エアコン代）など合計63，923円である。収入は、連合会からの運営助成金と前期繰越金の合計で126,606 円であり、当期収支差（次期繰越金）は63，683円となる見通しである。

<u>令和５年度　鹿ノ台未来まちづくり会議運営方針（案）の概要：</u>
令和５年度（2023年度）の運営方針は、「未来会議設立の原点である中長期的な街づくりの視点から『鹿ノ台未来まちづくり中期計画（案）骨子』をもとに実行計画を策定し自治連合会と連携して、未来まちづくりを推進する」とする。中期計画骨子（案）の内、優先度の高いテーマについて、具体的課題の抽出・解決策の検討を進めていく。

重点施策としては、以下の5つである：
1.　　子育て分科会では、①新規転入促進の一環として、アイデア募集およびワークショップの開催を通じて「鹿ノ台中央公園の魅力向上」の取り組みを推進する。②園児・児童を対象としたイベントを11月頃に企画・実施する。③「放課後子ども教室にじ」を支援する。
2.　　高齢者分科会の取り組みをベースに設立された「支え合い委員会」の活動を支援していく。
3.　　交流分科会を中心に、昨年実施した「森のコンサート」を発展させ、関係団体との連携のもとで実行員会を立ち上げ、令和6年度（2024 年度）春に「桜まつり（仮称）」を企画・実施する。
4.　　自治連合会ホームページにおいて、転入促進の観点から鹿ノ台の情報を対外的にも発信していくため、ホームページ委員会のメンバーとなった未来会議のメンバー3名が、一層の内容の充実に貢献していく。
5.　　その他、今後の中期まちづくりの課題を抽出し、解決策の検討を進める。

<u>令和5年度の予算について：</u>
令和5年度（2023年度）の予算は、令和4年度の繰越金 63,683 円と連合会か

らの助成金 50,000 円の合計 113,683 円で申請している。内訳は事務消耗品、印刷コピー代、会議費、イベント開催費などである。

子育て分科会の予算について：
来年度は、昨年11月に開催したイベントと同様の親子対象のイベントを、子ども分科会単独で実施したい。また、鹿ノ台中央公園の魅力向上プロジェクトを継続していく。そのための諸費用を、次年度の予算として申請した。

高齢者分科会と交流分科会の予算について：
特に予算を要する事業が予定されていないため、全体の予算に含める。

ディスカッション

収支見通しと予算について：
意見： 2022年度収支見通し V2 の支出の部合計の欄で、2022年度実績見通しと予算との差は「0」円ではないか。
回答： その通りである。修正する。
意見： 子育て分科会の会場費は、今年度までの減免の金額で計算されている。
回答： 修正する。全体予算では正規料金の金額に修正済である。

次年度事業について：
意見： 野外イベントを来年度（R5年度）は実施しないのか。交流分科会として予算を立てて継続的な活動をしていく方が良いのではないか。
回答：「森のコンサート」は、意思決定や実行体制などに不十分なところがあり、地安推のメンバーなど関係者にご無理をお願いすることになった。同じような形での実施は避けたい。また、去年の4月のコンサートは半年前から検討を開始したが、今年の4月はもう2か月後に迫っており、時間が足りない。

意見： 山田さんから毎年、総務省の官民連携まちづくりプロジェクト申請をご提案頂いているが、今年も〆切が2週間後に迫っており、今回も見送らざるを得ない。このようなプロジェクトについて、今から来年の申請に備えて準備すべきではないか。
回答： 連合会も忙しいので、準備作業が非常に多く、なかなか前に進めにくい。
回答： 官民連携まちづくりのプロジェクトは、当事者として生駒市に連携してもらわねばならないが、市にその意向がなく、それがネックとなっている。

意見： このプロジェクトよりもスケールが小さめの「脱炭素化の先行地域募集」という自治会を巻き込んだ事業がある。先日鹿ノ台で説明会が行われたが、こちらも期限が2月半ばだが、このようなプロジェクトも検討していくべきでないか。

意見： 他にも鹿ノ台に福祉的な準公共的施設を作ったらどうか、という意見がある。今やっていることの次のステップも見据えて議論していくべきではないか。
意見： それは「支え合い委員会」がやることではないか。支え合い委員会で手が回らないとすれば、担い手がいないのではないか。

意見： 煩雑で量も多い事務処理を一つ一つ進めていく人がいない。未来会議が標榜する方向を、連合の各委員会が実施してくれているという現体制で良いのではないか。
意見： 若手メンバーの意見を聞きたい。
若手メンバー意見①： 我々ボランティアがやることと、行政がやることは区別すべき。子育て分科会も手一杯である。将来のことを考えて風呂敷を広げることは、この人数ではできない。確実にできることからやっていくべきである。
若手メンバー意見②： 提案をする時に、実現の方法を合わせて提案して欲しい。それが提案されれば議論を進められるが、理想について話し合っても埒が明かない。
若手メンバー意見③： このメンバーでできることを、できる範囲でやって、現役世代が住みよい場所にできればと思っている。反対意見を出す場合には対案を示すようにすれば議論が前に進められるのではないか。
若手メンバー意見④： 若い世代の転入者が増える中、自治会員の意見は多様であり、コンセンサスをつくること自体が難しいという現実を重く見て欲しい。どういうニーズがあり、何が優先されるべきか、ということについて丁寧に自治会員の意見を拾っていく必要がある。また、担い手不在のまま事業を増やすことには慎重でありたい。
意見： 企業の将来像づくりとまちづくりとは本質的に違う。企業には利益を上げる目的があるが、住みやすいまちづくりのビジョンは多様であり、また理想像ばかり議論されても実現の筋道が見えない。予算も足りない。
意見： かつては連合ですべてを実施していたが、その後、会長経験者などが中心となって各委員会（17条委員会）がつくられ、連合を支える今の形になった。
意見： 今のその体制でカバーできていない部分について、新たな活動を生み出し、それを新たな委員会として立ち上げていったらいい。だとすれば未来会議は何をやるのか。未来会議ではもっと先々のことを考えて議論していって欲しい。今やるべきことへアプローチと、あるべき姿から考えていく演繹的アプローチを50:50で取り組むのが良い。
意見： 17条委員会が増えすぎても、相互の連携や調整が難しくなるという問題がある。未来会議・高齢者分科会で検討したことを支え合い委員会に落とし込んでも、活動の支え手が十分にいないという問題が起きている。
意見： 運営方針（案）では「鹿ノ台未来まちづくり中期計画（案）骨子」を発展させることとなっており、今は取り上げていない重点施策について、または新しい課題についても、分科会や検討課題を決めて取り組んでいくのは可能である。

質問： 子育て分科会と子ども会との連携はしているのか。
回答： 連携していった方が良いかもしれない。ただし、「放課後子ども教室にじ」の活動も、子ども会の活動も、それぞれ決まった児童メンバーのための活動であり、日常の事業では連携できない。子ども会の運営も、参加する子どもたちの保護者の当番制であり、他の事業と連携する余力があまりないのではないかと思われる。双方に負担が少なく、実現可能な連携の方法があるか考えたい。

⇒ 鹿ノ台未来まちづくり会議運営方針（案）については継続して議論する。
⇒ 2022年収支見通し（案）、および2023年度予算（案）について承認された。

子育て分科会・鹿ノ台中央公園魅力向上プロジェクトについて

経緯： 子育て分科会では、転入促進の観点から、中央公園の魅力を向上するための方法を考えてきた。ターザンロープ設置案が出たときに、自治会員の方から反対のご意見を2通いただいた。地域の皆さんが多様なご意見をお持ちであろうことを踏まえ、小・中学校の児童生徒と自治会員の皆さんからアイデアを公募することにした。
進捗： 自治会の回覧で戸別配布を予定していたが、連合役員会のご意見を踏まえ、各ブロックに趣意書1枚と回答用紙5枚を配布させていただいた。趣意書には QR コードを載せ、スマホや PC からも回答できるようにした。小学校には1月20日に配布と回収の依頼をした。中学校向けは印刷物が届いておらず、配布依頼はまだである（その後1月25日に依頼した）。
回答状況： 紙の回答はまだ来ていない。QR コード経由の回答は30件来ている。半数以上が「遊具が欲しい」と回答しているが、具体的な内容はさまざまである。「遊具以外」の設備を希望されている方も多い。使用目的としては、「子どもの遊び場・運動場所」という方が12件だった。小学校は回答時間を設けてくださることになった。中学生は QR コードでの返信、または、いきいきホールポストへの投函となっている。
今後のスケジュール： 2月10日が〆切なので、2月末頃までに集計を済ませ、3月に未来会議と連合役員会に報告したい。5月・6月・7月に各1回計3回ワークショップを開催し、具体的な提案につなげていきたい。

情報： 噴水の希望が多いが、これまでの経緯をお伝えしたい。当初は銅像の後ろの壁を水が滝のように流れていた。その後、ポンプの故障、節水志向、行政のコスト削減、および池に放流していた金魚やコイが夏の高温で死滅したこと、ボウフラ発生への苦情などの理由により、中央公園には水が流されなくなった。このような経緯を理解して欲しい。

情報： 自治連合会で「困り事」の全戸アンケートをしたが、それに先立ち結ネットでも同じ質問でアンケートを行った。回答は100件ほどだったが、結果は全戸アンケートの結果と相似形だった。結ネット加入者は450人ほどでしかないが、大まかな傾向は知ることができると分かった。

結ネットについて

質問： 結ネットの導入から1年ほどが経過したが、改めて以下の点についてご説明いただきたい。①運営の基準、②掲載内容の基準の有無、③権限者の範囲と選定基準、④連合ホームページとの関係、⑤運営経費の財源、⑥結ネットの有料化の検討状況。

回答： 地域 ICT 連携委員会が助成金を受けて運営している。
② 掲載内容の基準について： 地域ICT連携委員会の規約で規定している。「情報発信の内容」として「自治会活動、住民生活を向上させる活動」を中心に掲載するとしている。また、「住民の意向を調べ、支え合い活動に」活用す

るとしている。禁止事項として、政治的、宗教的、反社会的、誹謗中傷など。発信の時間制限（夜10時まで）も設けている。

③ 権限者の範囲と選定基準： 結ネット会員の全員が情報発信できる。権限者は自治会長11名と各委員会の代表者である。権限者は、配信対象者を限定すること、および個人に発信することができる。

④ 連合ホームページとの関係について： ホームページは地域の内外の両方に情報発信するツールだが、結ネットは地域内の情報交換や助け合いのためのツールである。即時性と双方向性を活かし、助け合いや災害時の安否確認などに使える。興味・関心が近い人をつなぐ手段として、また人探しやペットの捜索などにも使われている。連合のホームページと結ネットで重要と思われる情報を相互に掲載してもらうようにしている。

⑤ 運営経費の財源について： アンケートで判明した電子回覧希望者約450名に結ネットに入ってもらうよう4月から呼び掛けていく。回覧を事務所で PDF 化し、PC から結ネットに発信することを検討中。結ネットの費用は年間一世帯当たり1000円である。R4年度は48万円かかる見通し。財源の内訳は、連合会からは実質15万円（45万円のうち30万円を返還）、その他は助成金（生駒市地域コミュニティ課の半額助成で24万円、北地区自治連合会からの地区活動費20万円のうちの10万円）。

⑥ 結ネットの有料化の検討状況： 次年度（R5年度）は今年度と同じ財源で運営する。他の結ネット導入地域でも加入率は20％程度なので、財源もその規模で考えている。連合会からは14万円の支出で、運営経費総額は48万円の予定である。加入者が暫時増えているので、R6年度からは、加入者から費用の半額（500円）を自己負担してもらうことを考えている。

意見： 各委員会の代表者が権限者であることについて、結ネットに加入していない委員会代表者には知らされていない。

意見： 外部資金がなくなったら一世帯1000円が自己負担になる。それでも加入を続ける人がいるのか。デジタルは、信頼性に問題があるのではないか。

意見： 結ネットは SNS の一種なので、LINE や Twitter など無料のツールで代替することも可能ではないか。奈良県は LINE を使ってコロナ感染者数を毎日お知らせしている。LINE グループでも誰が見たかを確認できる。

意見： LINE ワークス（1000アカウントまで無料）を使っている自治体もある。結ネットと比較検討しても良いのではないか？

意見： 2500世帯が結ネットに加入したら250万円かかる。半額自己負担でも連合会の負担は125万円。補助金が出たとしても70～80万かかる。全世帯が入るというのは実際には難しいので、紙の回覧も残さねばならない。とすると、利便性は上がる世帯があったしても、十分に費用対効果があるとは言えないのではないか。

意見： どのような経緯で結ネットが導入されたのかが不明確なことが問題の根底にある。地域 ICT 連携委員会は毎月検討しているのか。議事録はあるのか。

回答： 月一回委員会を開催している。確かに結ネットだけでは限界がある。連合ホームページを見てもらう努力も必要である。結ネットには即時性と双方向性というメリットがある。結ネットは外部に転送することができない閉じたメディアであるため、安全性が高い。だが LINE は転送が可能でセキュリティ上問題がある。

⇒　地域ICT連携委員会で今日出た意見について検討していただき、議事録を作成し、進めていって欲しい。

県域水道一体化について

中尾議員の説明： 市長が参加を意思表明した。2月に基本計画を決定、基本協定に調印し、4月以降に法定協議会を発足させることについて3月議会で審議する。県域水道一体化の目的は、安心・安全な水道水の供給維持することで、水道施設の老朽化対策が最重要課題である。

生駒市には浄水場が2か所（真弓・山崎）、配水池・場・中継所が24か所、管路が678km、自己水（井戸）は34％であり、県営水道から66％を買っている。奈良市は自己水90％なので、生駒と状況が違う。生駒市は内部留保金がもっとも多く、借金もない健全経営だが、50 年近く前に整備された水道施設や水道管が大量に更新時期を迎え、耐震化対策も含め、投資的経費の増大が見込まれる。内部留保金はR4 年度で49億円あるが、投資的経費の増大で減っていく。一体化によって水道料金の抑制効果と管路更新・老朽化対策が向上するというメリットがあると市は判断している。

生駒市議会では、平成30年より都市建設委員会で説明を受けている。委員会では、単独経営でなくなった場合に声が届かなくなるという懸念が多いが、正副企業庁会議・運営協議会・企業団議会などを通じて意見が反映できる。また、施設の老朽化対策については、実績を保証、計画を尊重することが基本原則となっている。管路の更新は一体化後に1％の更新率が保てるとしている。山崎浄水場については、R30 年までは使用され、災害時発生時の活用も市の自己負担が前提で協議できる。

奈良市が不参加になったことで、緑ヶ丘浄水場の水が使えなくなったが、生駒市の真弓浄水場が存続されることになった。奈良市には古い管路が多いため、企業団の更新費用が少なくなるというメリットもある。他方、奈良市は水道職員が多いため企業団の水道職員数が少なくなることと、国・県からの補助金が減るという側面もある。大和郡山市が参加を表明したことで、同市の昭和浄水場の存続が決まった。これは、生駒市にとっては安心材料である。

鹿ノ台コミバス12月度乗車実績について（報告）

12月の実証運行の日数は12日、乗車実績は累計516人、一日あたり平均 43人である。8 月～12月の累計では、運行日数は61日、利用者合計は2701人、1 日あたり平均利用者は 44.3人であり、目標値の50人に届いていない。

利用促進のためのキャンペーンを、スーパーいそかわの協賛を得て 12 月 26 日より開始している。是非利用して頂きたい。

また、利用者への満足度調査アンケートを実施した。12 月 19 日～1 月20日の期間、アンケート調査員7名（コミバス委員）が8便×8日間に分担してバスに乗車し、アンケートを合計158枚手渡した。回答は車内の回収箱に入れてもらうか、いきいきホールのポストに投函してもらう。現在30％回答が戻ってきている。運行日の変更、および運行時間の変更も、結果を見て決めていく。ただし、運転手の稼働時間は増やせない。

2月の連合役員会で、年間を通した運行により季節要因の影響を見極めるた

め、また本格運行への移行までの空白期間を作らないために、現在の7月末までの実証運行期間を延長する方向で、提案したいと考えている。

意見： 路線バスのルートの廃止が全国的に増えてきており、鹿ノ台ではコミバスまで運行しているのは非常にありがたいことである。将来的には路線バスの廃止もあり得るので、コミバスを維持していくことは非常に大事なことだと思う。

意見： 将来的に自動運転や AI オンデマンド運行の取り組みなども実現に向けて話し合ってほしい。
回答： ご意見はコミバス委員会に報告する。

鹿ノ台地区の防犯カメラ設置完了の報告（地域安全推進委員会）

鹿ノ台には9年前より防犯カメラが3台設置されている。生駒市と鹿ノ台自治連合会からの補助事業により、この3台の機器交換を行い、現在稼働中。さらに新規に2台を設置した。この新設 2 台は通電の許可に1～2か月かかるため、2月または3月に運用が開始となる。これまでは1週間程度しか連続記録できなかったが、新しいシステムでは20日間の記録が可能となった。関係者の方にはご尽力いただいた。感謝申し上げたい。

次回

日時： 令和5年2月19日（日） 13：30～16：00
「東西」の構成員および幹事は13：15集合

場所： 西集会所

以上